

NO.11
September '91

NEWSLETTER

神戸女学院大学
女性学
インスティテュート

AWI会議開催にあたって

廣 澤 節 子

AWI(The Asian Women's Institute)とは――

アジア諸国(インド、パキスタン、フィリピン、レバノン、韓国、日本)のキリスト教女子大学13校からなる、高等教育におけるアジアの女性の成長と自己実現のために様々な共同活動(共同研究、交換留学プログラム等)を行っている団体です。

神戸女学院大学は1985年に加盟し、同年大学研究所の付属研究機関として女性学インスティテュートが設置されました。

現在、日本では、東京女子大学と神戸女学院大学の2校が、AWI加盟校です。

<AWI加盟校> (1991年現在)

INDIA

Isabella Thoburn College (Lucknow)
Howabagh Women's College (Jabalpur)
St. Christopher's College of Education (Madras)
Women's Christian College (Madras)

JAPAN

Tokyo Woman's Christian University (Tokyo)
Kobe College (Nishinomiya)

KOREA

Ewha Womans University (Seoul)
Seoul Woman's University (Seoul)

LEBANON

Beirut University College (Beirut)

PAKISTAN

Kinnaird College (Lahore)

PHILIPPINE

Philippine Women's Institute comprising:
Silliman University (Dumaguete)
Harris Memorial College (Manila)
Northern Christian College (Laoag City)

1991年度AWI会議開催決定までの経過――

1986年5月、ニューヨークでAWI執行委員会(Executive Committee)が開かれ、神戸女学院大学が1988年度AWI会議(3年毎)開催校の候補となりましたが、種々の事情で日本開催が見送られ、前回の会議は結局インドネ

シアのサラティガで開催されました。

しかしながら、1989年3月に1991年度AWI会議の開催校として、再度神戸女学院大学が、候補としてあがり、本学とAWIおよび東京女子大学(1978年度AWI会議開催校)との間で度々審議した結果、本年9月30日(月)～10月7日(月)迄本学主催にて、AWI会議が開催される運びとなりました。日程等は以下の通りです。

〔日 程〕

- 9月30日(月)～10月2日(休)教育会議(公開プログラム)
- 10月3日(休)～10月5日(土)学長会議
- 10月6日(日)～10月7日(月)執行委員会

〔会 場〕

関西学院千刈セミナーハウス(三田市)

〔テーマ〕

テクノロジー時代における女性と環境

〔参加者〕

アジア諸国より50名～60名(予定)

付記――

①〔教育会議(公開プログラム)概要〕

本年度のテーマである環境問題に関連した講演、現地報告等が、各会員校の代表者によって行われる予定です。

尚、10月1日(火)には本学食物学科の川合真一郎教授の講演が予定されています。

<講演要旨>

“Environmental Education and Studies at Kobe College”

(「神戸女学院大学における環境教育と研究」)

戦後半世紀近くを経過した我国において、産業と経済の発展はめざましいが、その反面環境汚染の進行も著しく、諸外国からは公害先進国という有難くない呼称もつけられている。1970年代に入り、環境に関する諸問題は社会的にも解決すべき重点課題として国および自治体レベルでとり上げられ、環境保全に関する法規制の整備や国民全体の意識の向上さらに環境浄化技術の進歩などにより、今日では環境問題はやや沈静化したように見える。たしかに過去に多くの犠牲者を出したような悲惨なタイプの公害問題は影をひそめつつあるものの、我々の身の回りにはもとより、地球規模で考えざるを得ないタイプの環境問題が現在まさに進行中である。このような状況において大学における環境教育と研究の意義は大きく、また期待されるところも多い。

本学においてもこれまで「環境科学」、「生命の科学」および「生化学」というカリキュラムの中で環境に係る諸問題を取り上げ講義している。また、卒業研究の課題としても身近な水環境に的を絞り、汚染の現状や汚染物質の毒性評価法にとり組んでおり、これらについてAWI会議の中で紹介し、諸外国からの参加者と討論する。

(食物学科教授 川合真一郎)

また、同日午後には予定されている「ケース・スタディおよびパネル I、II」では、本学英文学科の平井雅子教授によるプレゼンテーションがあります。

(“Campaign against the Deforestation of Rain-Forests and Women’s Involvement in Japan”)

②(神戸女学院大学としての特別プログラム)

アジア諸国よりお迎えした参加者の皆様に、この機会にぜひ日本の伝統文化(古典芸能、伝統芸術、武道等)に接して頂きたく、AWI教育会議の開催中に、“Cultural Evening”(日本伝統文化の夕べ)と云う催しを下記の要領で企画いたしましたので、多くの先生方や、学生の皆さん達の御協力と御参加を心よりお願い申し上げます。

[日 時]

10月1日(火)午後7時30分～9時頃(予定)

[場 所]

関西学院千刈セミナーハウス——大講義室

[内 容]

日本の伝統文化の紹介——演奏・実演・展示

[参加予定団体]

- 焼物倶楽部：作品展示・紹介
- 現代邦楽研究会“鷺”
(琴アンサンブル“鷺”)
：演奏「四季・春」(ヒバルディ作曲)
- 合気道会：演武
- 華道部
：生け花実演、参加希望者による体験コーナー
(順不同)

③(AWI交換プログラム・視察団来訪について)

AWI会議の開催に先立ち、インド、パキスタンおよびレバノンの教員・学生からなる視察団が韓国および東京女子大学を歴訪した後、下記の日程で、神戸女学院大学を訪問いたします。この歴訪はAWIがリーダーシップ養成を目的として実施している交換プログラムによるもので、神戸女学院大学は前回のプログラムにも参加し、1985年12月よりインドからの留学生を6月間受けいれました。

[訪問日程]

- 9月26日(休)午後 東京より到着

- 9月27日(金)～29日(日) 神戸女学院大学滞在
- 9月30日(月)～10月4日(金) AWI会議参加
- 10月5日(土) フィリピンへ出発

[参加予定者]

- | | |
|---|---|
| 1. Dr. Nikhat Khan
(教員) | Kinnaird College
(Lahore-PAKISTAN) |
| 2. Ms. Priscilla
Nirmalakumari Daniels
(教員) | St. Christopher’s College
of Education
(Madras-INDIA) |
| 3. Ms. Rima Zankoul
(学生) | Beirut University College
(Beirut-LEBANON) |
| 4. Ms. Zanobia Sylvester
(学生) | Kinnaird College
(Lahore-PAKISTAN) |
| 5. Ms. Vinodhini Charles
(学生) | Women’s Christian Col-
lege
(Madras-INDIA) |
| 6. Ms. Sarah Latha
Ignatius
(学生) | St. Christopher’s College
of Education
(Madras-INDIA) |

視察団の滞在中、大学側では、懇親会やシンポジウム等のプログラムを企画しておりますので、先生方、学生の皆さん達には案内、通訳もかねて積極的な御協力をお願いいたします。

(女性学インスティテュートディレクター 音楽学部教授)

教育会議プログラム

第一日目 9月30日(月)

- | | |
|-----------|--|
| 9:00a.m. | 開会の辞および礼拝 |
| 10:00 | 基調講演 Dr. Vandana Shiva
“Women and the Environment
in an Age of Technology” |
| 10:45 | 質疑応答 |
| 11:00 | 休憩 |
| 11:30 | ワークショップ
～地域別、問題別討議 |
| 12:30p.m. | 昼食 |
| 2:00 | セッション |
| 3:00 | 休憩 |
| 3:30 | ビデオ上映会
a) 公害問題(大気汚染、水質汚濁、食品公害)
b) 土壌汚染、土壌侵食、森林伐採 |
| 5:00 | 休憩 |

6:30 学長主催歓迎パーティー (三田屋本店:三田市)
 ~能特別上演(“羽衣”:泉嘉夫氏)

第二日目 10月1日(火)

9:00a.m. 礼拝
 9:15 講演II 川合真一郎教授(神戸女学院大学)
 “Environmental Education and Studies at Kobe College”
 (「神戸女学院大学における環境教育と研究」)
 講演III Dr.Indrani Michael
 “Environmental Pollution: Its impact on Women”
 10:00 質疑応答
 10:15 休憩
 10:30 ワークショップ
 ~地域別・問題別討議
 11:30 セッション
 12:30p.m. 昼食
 2:00 ケース・スタディおよびパネルI
 3:00 休憩
 3:30 ケース・スタディおよびパネルII
 ~会員校による現地実態報告(各12-14分)
 5:00 休憩
 6:00 ミーティング
 6:30 夕食
 7:30 “Cultural Evening”(日本伝統文化の夕べ)
 ~華道部、現代邦楽研究会“鶯”、焼物倶楽部、合気道会

第三日目 10月2日(水)

9:00a.m. 祈禱
 9:15 “Ineterdisciplinary Approach to Environmental Studies”
 (講演者未定)
 10:00 休憩
 10:30 “Community/Outreach Approach to Environmental Education”
 (講演者未定)
 12:00p.m. 昼食
 1:30 総括
 祈禱 Rev. Beverly Thompson-Travis
 3:00 閉会 Dr. Indrani Michael

引き続き、学長会議(10月3日(木)~5日(土))および執行委員会(10月6日(日)、7日(月))が行れる予定である。

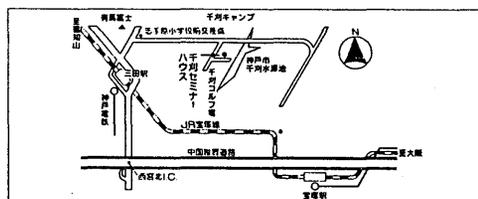
会場交通案内

北摂の緑豊かな自然に恵まれた関西学院千刈セミナーハウスへは、JR、神戸電鉄等の鉄道利用の他中国縦貫道路を軸にした道路網も完備され、大阪市内からいずれの便でも1時間に到着することができます。

□鉄道利用の場合・JR宝塚線、神戸電鉄とも三田駅下車。西谷バス波豆・東部行き乗車、約15分「羽東川」(千刈キャンプ前)下車、南側の山にのぼって徒歩10分。

□三田駅からタクシー利用の場合・「千刈ゴルフ場経由」と告げて下さい。約15分。

□自動車で来館の場合・中国縦貫道西宮北I.Cより国道176号線、三田駅北側にあたる三輪交差点を右折。国立療養所兵庫中央病院を経て志手原小学校前交差点を右折、約4キロ。



◎AWI教育会議(公開プログラム)に参加希望の方は、女性学インスティテュート(D-303)までお申し出下さい。

図書・資料をご利用下さい

女性学インスティテュートでは、女性学関係の図書および定期刊行物、ビデオ、講演会のテープ、その他の資料を収集、整理し、学生および教職員の方々のご利用をお待ちしています。閲覧と貸し出し希望の方はD館303号室までお越し下さい。

開室時間(月)~(金) 8:30~16:30
 (12:00~13:00以外)

新着図書ご案内

- 『英語で読むアメリカのフェミニズム』
(藤枝滯子他・著 創元社)
- 『フェミニズムの彼方』
(水田宗子・著 講談社)
- 『恋愛小説の陥穽』
(三枝和子・著 青土社)
- 『女性史研究入門』
(歴史科学協議会・編 三省堂)
- 『ラディカル・フェミニズム再興』
(江原由美子・著 勁草書房)
- 『女の人生すごろく』
(小倉千加子・著 筑摩書房)

「女たちよ、男たちよ」

風呂本 惇子

元奴隷のイザベラが「ソジャーナー・トゥールズ」(Sojourner Truth)と名乗ったのは1843年、彼女が推定46歳の時だ。(黒人奴隷の多くは生年が明らかではない。)心の内に神の声を聞いた、と確信した彼女にとって、奴隷の時に与えられた名前はもはや自分にそぐわないものに感じられたのである。「ソジャーナー」は「一時的逗留者」すなわち「旅を続ける人」の意味である。以後、「真実を広めてまわる人」というその名にふさわしく、奴隷制廃止運動に、また女性参政権運動に、各地を巡って伝道の旅を続けることになる。

各種の集会で出会ういやがらせや妨害に少しも屈せず講演活動を続け、やがてリンカーン大統領にも一置かれ、連邦上院議会で招かれるほど著名になったソジャーナー・トゥールズは、身長180センチの堂々たる身体、黙示録に出てくる雷のようだと言われた迫力ある声のおかげもあって、エピソードにこと欠かない。

19世紀の「女らしさ」の概念では、女は肉体的精神的にかよわくて家の外で厳しい世間にまみれることに耐えられないのだから、その知性も能力も参政権を持つにふさわしくない、ということになる。女性の権利を求める集会でこれを言いつける男性に、トゥールズは筋肉のついた腕をまくり上げて見せながら、自分がどんな男にも負けぬ力仕事をしてきたことを誇り、「でも私は女じゃありませんか」と反論した。また、彼女の身体と声に驚き、「男の女装だ」と非難する者が出た時、胸をはだけ、何人もの子を産み育てた乳房を見せ、「恥は私でなく、こんなことをさせるあなた方にあるのです」と論じたという。

痛快なエピソードだが、ひるがえって顧る時、私の中に身体が強くて力仕事のできるのを「男らしい」と思う気持ちがないと言えるだろうか。息子が小さかった頃、細くてげんかに弱いのを「男の子のくせに」といらだったではないか。もう21世紀も近いというのに、人間の概念の執拗さを、いやむしろ概念を育てる社会のしくみの底知れぬ力をあらためて感じる。(英文学教授)

「男たちよ、女たちよ」

内田 樹

村上春樹があるエッセイのなかで「主夫」をしていた半年のあいだ、家を守ってくさくさの家事を行っているうちに、いつのまにか「主婦的」メンタリティーという

べきものが身に備わってしまったと書いている。

村上春樹があげている例は、自分の作った料理を並べる場合にどうしても出来の悪い方を自分がとってしまうということだけれど、同じ「主夫」としてこの気持ちは実によく分かる。洗濯とかアイロンかけの場合でも、子供のものを陽当たりのいいところに干してしまうし、アイロンのかけかたも子供のものの方が気合いが入る。

朝、子供を送り出したあと、「おっと、こうしてもいられないわ」とつぶやくつばたばた家事をし、観葉植物に水をやり、ちょっと時間ができると音楽を聴きながら、コーヒー・ブレイクなんかをするのであるが、そういうときにまぶしげに朝日を見上げつつ「ふっ」とため息をついたりするときのしぐさはもう完全に「主婦」である。

「形」から入ってメンタリティーに至る、というのはなにごとによらず芸ごとの基本であるけれど、ぼくは「性差」というものもなかば以上は形から入って内在化するものだと思っている。

合気道の稽古を始めたときに、学生たちに道衣の着用を義務づけた。べつに体操服でやっても身体の動きに違いはないのだが、特別な衣装を着用すると、日常的な感覚から一時的に切り離されるという心理的効用がある。

「形」から入って、気持ちを決めるのである。

ぼくは「主夫」のときは必ずエプロンを着用する。エプロンをしないしていると、いやいや家事を手伝わされている「亭主」になったようで気持ちががたつかない。

(総合文化学科助教授)

1991年度前期活動報告

◎第一回講演会 7月3日(水)

(AWI教育会議関連プログラム)

「今、環境問題は……」

川合真一郎教授

(神戸女学院大学食物学科)

<予告> 川合真一郎教授は来るAWI教育会議においても、講演を行われる予定。ぜひ、ご来聴下さい。(詳細は本誌「AWI会議開催にあたって」をご覧ください。)

1991年度女性学インスティテュート編集委員

廣澤節子(委員長)、真栄平房昭、丸島令子、渡部充、山内祥史(ABC順)

編集・発行：神戸女学院大学女性学インスティテュート

〒662 西宮市岡田山4-1 ☎(0798)51-8545